

『庄内っこ日和』

令和3年5月18日

庄内こどもの杜幼稚園 教頭 岩崎巧

はじめに…

保護者の皆様いつも当幼稚園のもりのこっこにご理解、ご協力頂き誠にありがとうございます。

この『庄内っこ日和』は、令和元年度から掲示用として始めた、当幼稚園の園外保育での子ども達や先生の様子を、当学園の理念や方針と重ね合わせながら皆様にお伝えする“ドキュメンテーション”です。

晴れたよい天気という意味もある日和という言葉は、庄内っこの未来を明るく照らしています。このお便りを通して、日々の子ども達や先生の様子や当幼稚園の考えを少しでも知って頂けるきっかけとなれば幸いです。今回は、年長組もりのこっこ（春）の様子を配信したいと思います。

今回のもりのこっこのねらい：
・自然に触れながら、田植え体験をする
・自然の中で遊ぶことを楽しむ

当幼稚園の「もりの子っこ」とは、「鎮守の杜(もり)の子ども(つまり当学園の子ども)」が、「森の子ども」になるという意味です。

能勢にある野外センターや、能勢の田畑や川、自然豊かな公園には、庄内にはない決して人工的に作り出す事の出来ない自然が溢れています。

そこで子どもは、平常保育時以上に五感をフル活用しながら、四季ごとに活動する経験をします。それが、情操豊かな人間になる大事な活動であると思っております。(庄内の保育の根っこp37参照)

庄内の保育の根っこ



② 筍掘り体験&美味しい昼ごはん

今年は、特別に中川さんのご厚意で、自然に畑の敷地内に生えている筍を掘らせていただきました。筍掘りが初体験の子ども達は、「スコップ順番に使う」「1人10回したら交代しよう」と言って掘り方のルールを決めたり、「土の中に虫出てきた。」「筍ってめっちゃ硬いねんな」など、筍掘りの中で周りの環境や筍の特徴に、気付いたりもしていました。

お昼ご飯は、栄養士の森長さん特製ドライカレー。中川さんにその場で取った野菜も頂き、美味しく頂きました。子ども達も大好きな味付けで、すぐに売り切れました。

次の日、園に戻った後、筍ご飯と焼き筍を園庭で作って食べました。本物の体験が出来るとい事が、当幼稚園のもりのこっこの強みだと感じています。



もりのこっこ年長（春）

① まずは田植え体験

今年度、初のもりのこっこ能勢の農家中川さんの畑に到着した子どもたち。中川さんの説明をしっかりと聞いて、田植えを体験しました。「ねちょねちょする」や「泥になってる」と五感を使って田んぼの感触を裸足で味わいながら、田植えを経験しました。秋の収穫が、今から楽しみです。



農家中川さん



裸足で田んぼの感触を感じる

能勢の畑で田植え体験

③ 最後は思いっきり遊ぼう

昼ごはんの後は、自由遊びを楽しみました。たんぼぼの綿毛を吹いて春を感じる遊びをしたり、「探検いきたい」と言う子どもの声から、山道探検をしたりしました。山道探検では、トンネルを発見…子ども達はとても楽しんで入っていました。藁葺屋根の家の解体が中川さんの隣の家が行っていたので、その見学もしました。「いっぱい木がある」と初めて見る家の骨組みに驚いている様子でした。子どもが、今回気付いたり、感じたりした事が次回以降の活動にも生きてくるかと思えます。

